

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

学校名	佐賀市立思斉中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・小中合同協議会や研究授業を計画的に行い、小中の職員で児童生徒理解や指導方法改善を図る。家庭学習の習慣化と内容の充実をさらに図る指導も継続していく。 ・9年間を見通した児童生徒の育成を図るため、小中連携の充実に努める。また、様々な交流活動や地域学習を通して義務教育期間で地域や母校への愛着・自尊心を育んでいく。 ・全体的には落ち着いた学校生活を送っている。家庭や地域と課題を共有し、連携の強化を図る。 ・学校行事をはじめとして、様々な活動を通して、生徒一人ひとりの自己肯定感を育んでいく。 ・教職員の不祥事防止はもとより、業務改善を図り、教職員の資質向上に継続して努めていく。		
2 学校教育目標	『「見賢思斉」の精神で、たくましく未来を切り拓く児童生徒の育成』		
3 本年度の重点目標	1 夢や目標をもち、それに向かって粘り強く取り組む生徒の育成	2 いのちを大切にし、思いやりの心をもって人に接する生徒の育成	3 生徒理解を基盤とした生徒指導の充実

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○「自ら考え判断し、表現できる児童生徒」を育成するための授業改善	○「授業が分かりやすい」と肯定的に回答した生徒90%以上 ○家庭学習に進んで取り組んでいる生徒90%以上 ○「個々の能力を伸ばすようなきめ細かな指導を行っている」回答した教員90%	・基礎・基本の定着の徹底 ・「授業づくり1・2・3」を踏まえた分かる授業を目指した指導方法改善 ・家庭学習の定着に向けた指導	B	「学校の授業はわかりやすい」と肯定的に回答した生徒は95%であった。 「学校の先生から出された宿題をしている」の質問に肯定的に回答した生徒は92%であり、中間評価の時よりも微減したが、「家庭で自主学習（宿題以外）に取り組んでいる」の質問に肯定的に回答した生徒は63%と中間評価よりも高くなった。特に9年生において進路目標が明確になり、意欲が高まった。 「個々の能力を伸ばすようなきめ細かな指導を行っている」の質問に肯定的に回答した教員は100%であった。	B	・従来の一斉授業ではなく、グループで話し合うことに重点を置く机の配置や授業が多く見られた。今後も工夫していただきたい。 ・グループ討論の授業を拝見したが、みんなで考えることはよいことだと思う。 「学校の授業が分かりやすい」と回答した生徒が多かったことはとてもよい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「無言清掃・係の仕事・ボランティア活動等に積極的に取り組んだ」と肯定的に回答した生徒85%以上 ○「友達と協力する気持ちや思いやりをもって接している」と肯定的に回答した生徒90%以上	・QVを活用した学級づくり ・道徳・学活の計画的な実施と充実 ・学校行事等における生徒が活躍できる場の充実	A	「無言清掃・係の仕事・ボランティア活動等に積極的に取り組んだ」は94%、「友達と協力する気持ちや思いやりをもって接している」は97%の生徒が肯定的な回答だった。文芸発表会や修学旅行・校外学習、また生徒主体のボランティア活動を通して、仲間のよさに気づき思いやりの心を育むことができた。また、10月実施のQVの結果を踏まえて、各学級で道徳、学活を計画的に実施することができた。	A	・無言清掃、ボランティア活動に自ら取り組んだ生徒が多く、よかった。また、仲間のよさに気づき、思いやりの心を育むことができたことも成果だと思う。 ・掃除、係活動、ボランティアなど、協力することで全体のためになる事柄は、社会生活にも役立つので、今後も積極的に取り組んでほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校が楽しい」と肯定的に回答した生徒90%以上 ○「学校は、いじめ問題について未然防止、早期発見・早期対応に努めている」と肯定的に回答した保護者90%以上 ○「いじめ防止について組織的な対応ができている」と肯定的に回答した職員90%以上	・人権集会やいじめ、いのちを考える日の開催 ・毎月「心のアンケート」の実施 ・教育相談の定期的な実施及び充実 ・情報モラル教育「ひまわり講座」の実施 ・いじめ対応に関する研修の実施	A	「学校が楽しい」と肯定的に回答した生徒は88%、「学校はいじめ問題の未然防止、早期発見・早期対応に努めている」と回答した保護者は84%だった。これは、毎月「心のアンケート」や教育相談、日々の観察等を通して全教員がいじめの早期発見、早期対応に努めることができた。 ・情報モラルに関する啓発、犯罪被害防止啓発など折に触れ学校、学年、学級で取り扱うことで生徒の被害、加害の防止につながっている。	A	・指導は大変難しいと思う。 ・いじめの発見や解決は、内面的なものであり、個々の対応が難しいものではあるが、今後も未然防止に努めてほしい。 ・いじめられている本人は、人に言えない。まわりの人が早く気づいて、対処してやることが大事。「うちの学校は起こらない」ではなく、日頃から予測しておくことも必要だと思う。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した生徒85%以上	・学校行事等をはじめとして、生徒一人ひとりの活躍の場の設定と振り返り活動の充実 ・総合学習やキャリア教育を通して、自己の生き方を考える機会の設定と振り返り活動の充実	B	「先生はあなたのよいところを認めてくれている」に肯定的に回答した生徒は86%となり、「将来の夢や目標を持っている」に肯定的に回答した生徒も77%に向上した。後者は目標の85%にはまだ達していないが、2学期には「立志式」や「職業人に学ぶ」「卒業生に学ぶ」という進路授業に係る活動を行い、進路に対する意識の向上を図る。	B	・進路は年々多様化しており、それに伴い子どもたちの将来の夢なども変化している。職場体験や進路に対する活動など、より多くの機会を設けてほしい。 ・夢や目標をもって進んでいる先輩等の講演を開催してもよいと思う。 ・地域や多年齢交流をもっと深め、外部からの刺激に多く触れる機会を設けるお手伝いできればと考えている。
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化 ●望ましい生活習慣の形成	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上である生徒85%以上 ○「健康にバランスのとれた食事は大切である」と肯定的に回答した生徒90%以上	・規則正しい生活（食事）、適度な運動習慣等を身に付ける指導の充実 ・保健便りの定期発行による健康に関する意識の啓発	B	・420分以上の割合はあまり変わらず、改善の余地があるため、授業を中心に体を動かす楽しさを伝えるように努める。 「健康にバランスの取れた食事は大切である」に対して肯定的に回答した生徒は87%、「毎日、朝ご飯を食べている」は93%。保護者への質問の中で、「家庭で規則正しい生活ができるよう努めている」に対して肯定的な回答が92%、「学校は、健康増進のための教育を行っている」が94%であった。これからも保健指導や給食指導などを通して規則正しい生活習慣の定着について、家庭と連携して取り組んでいく。	B	・心身共に大事な成長期である。バランスの取れた教育がなされていると思う。 ・部活動をしていない生徒でもスポーツを気軽に楽しめるような機会があればよいと思う。 ・学校と地域などが連携して、スポーツを行う機会や選択肢を増やすことが必要になってくると思う。
	○安全に関する資質・能力の育成	○交通安全教室や防犯教室等の講話など、「安全教育を通して、命を守る行動について理解できた」と肯定的に回答した生徒90%以上	・交通安全教室、防犯教室及び避難訓練の実施	A	「交通安全教室や安全に関する学習などを通して、命を守る行動について理解している」は下校時に交通ルールを守り、交通事故にあわないように気を付けている」「校内だけでなく、学校外でも危険から身を守る行動をとっている」のそれぞれの質問に対して、97%以上の生徒が肯定的な回答した。今後も継続して指導していきたい。	A	・全体的に安全に意識が下りてきている。指導がよいきっかけになっている成果を感じる。 ・交通安全はよく守られている。今後は突発的な災害などに対する臨機応変な対応も身に付けていく必要があると思う。 ・地域のハットロール隊など、安全・安心に見守っており、協力して安全・安心に努めてほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・部活動休業日の設定 ・職員の時間外勤務状況を把握して適切な指導を行う。	B	・職員の89%が「自身の働き方を見直して改善を行い、前年度よりも時間外勤務時間の削減や年休取得の推進ができて」と回答している。今後も声をかけながら、指導を行う。 ・長期休業中の定時退勤は全職員ができている」と回答している。 ・部活動休業日については、全職員が概ね実施できていると回答している。	B	・業務は年々煩雑化しているのではないかと感じる。カットしてよさそうなものは、思いきって切り離し、教職員の負担軽減に今後も取り組んでほしい。 ・先生方のワークライフバランスがよりよく整うことを願う。 大変多忙だと察するが、声を掛け合いながら、無理のないよう健康に十分注意していただきたい。
	○コンプライアンスの意識の向上	○本校職員の関わる事件・事故の発生ゼロを維持する。	・職員会議毎に「ゼロの日」の実践の継続 ・講師を招き、服務に関する研修会の実施 ・声かけを大切にして、お互いに見守り合う体制の充実	A	「ゼロの日」については年間を通して実施できた。 ・服務規律の保持については「ゼロの日」だけでなく、必要に応じて会議等で全員で確認し、意識の向上を図ることができた。 ・今後もお互いを見守り合う体制を維持し、教育公務員としての自覚を葆つ。	A	・県内の教職員不祥事のニュースは胸が痛くなる。思斉中の先生方は一生懸命にしたいにしていると思う。 ・教職員が起こすトラブルは一般人に比べて社会に大きな影響を与えます。今後も引き続き取り組んでいたいただきたい。
●特別支援教育の充実	○配慮を要する生徒への支援の充実	○「配慮を要する生徒への支援の充実に取り組んだ」と肯定的に回答する教員90%以上	・特別支援教育に関する職員研修会等の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有 ・特別支援学校巡回相談の実施	B	・全職員が「特別支援教育など個に応じた指導を行っている」と回答している。保護者との面談を定期的に実施し、連携を図った。小学部から小中学校の児童・保護者との面談の機会も設け、中学校入学期の支援や進路について情報共有することができた。 ・巡回相談の実施ができなかったため、次年度は年間計画に取り入れ、校内全体の支援体制の充実やユニバーサルデザインの視点をもちた授業づくりなどについて充実を図る。	B	・中学校だけでなく、小学校との連携が必要なものだと思う。今後も小中合同、他の学校との情報交換など、続けて取り組んでもらいたい。 ・小学部や保護者との連携について、異動時期は特に密に行っていたいただきたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○生徒指導（教育相談）の充実	○共感的な人間関係の育成に向けた取組の充実	○「日頃から生徒とのコミュニケーションを重視し、生徒の悩みに直ちにに応える体制をつくっている」と肯定的に回答した教員90%以上 ○「友達関係に満足している」と肯定的に回答した生徒85%以上	・SC、サポート相談員、SSW等との連携強化及びその連携を踏まえた教育相談部会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有 ・教育相談の定期的な実施及び充実	A	・職員全員が「日頃から生徒とのコミュニケーションを重視し、生徒の悩みに直ちにに応える体制をつくっている」と回答している。教育相談部会も月2回程度実施し、状況把握や支援体制等の充実に努めた。 ・97%の生徒が「友達関係に満足している」と回答している。次年度も、共感的な人間関係の育成に向けた取組の充実を図りたい。	A	・先生と生徒、生徒同士の信頼関係が築かれている。 ・先生と生徒の関係がしっかりしていれば、トラブルも少なくなると思う。今後も良好な関係づくりを行っていたきたい。 ・生徒の悩みに応える体制ができていることが一番よい。今後も信頼関係づくりを図ってほしい。
○郷土を誇りに思う教育	○家庭・地域と連携した教育活動の充実	○「郷土のよさに気づくことができた」と肯定的に回答した生徒90%以上 ○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と肯定的に回答した生徒85%以上	・ボランティア活動や小学部との交流活動、地域連携による体験活動の実施 ・思斉学の活用及び思斉学検定の実施 ・地域行事に関する周知徹底と参加推進	A	「郷土のよさに気づくことができた」と肯定的に回答した生徒は94%であった。文化発表会、修学旅行などに向けた活動やボランティア活動、思斉の郷土まつりなど地域行事への参加をおして、郷土愛が育まれていると考える。 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と肯定的に回答した生徒は84%であった。町民体育大会や思斉の郷土まつりなどのボランティアに参加した生徒が、昨年度より増加し、地域との連携で、地域や社会をよくしたいという意識は高まってきたと考えた。来年度も継続して取り組んでいく。	A	・地域行事など、積極的に参加している生徒が多いと思う。学校・家庭・地域の連携を大切にして、全体で子どもたちを育てる環境を整え、「久保田が好き」と自信をもって言える人に育ってほしい。 ・地域行事への積極的な参加は、引き続き期待している。 ・将来の久保田に期待できる人材が育てられている。見賢思斉の精神のとおり、校名も久保田ではなく「思斉」であり、誇りに思っている。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・9年間を見通した児童生徒の育成を図るため、学校行事をはじめとして、様々な活動を通して小中一貫教育の充実に努める。義務教育9力年で地域や母校への愛着心や自己肯定感等を育んでいく。 ・学力向上については、小中学校内研究会やお互いの授業参観を通して授業改善に取り組んでいる。次年度も小中合同の研修会等を通して、小中連携を図りながら、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る指導も継続していく必要がある。 ・全体的には落ち着いた学校生活を送っている。次年度も家庭や地域と課題を共有し、連携の強化を図る。 ・教職員の不祥事防止はもとより、業務改善を図り、教職員の資質向上に継続して努めていく。
----------------	--